

運動部活動地域移行・地域連携に関するアンケート報告書概要版

(調査対象：市スポーツ協会加盟競技団体・市内スポーツ少年団・モデル事業の参加生徒・保護者・指導者)

- 1 調査目的 本市の運動部活動の地域移行・地域連携に向けた、競技団体・スポーツ少年団及びモデル事業※注1参加者の実態把握と課題等を探るもの
- 2 調査内容 令和6年度以降のモデル事業への参加意向、モデル事業に参加しての感想、今後の地域連携への考え方など
- 3 調査期間 令和6年1月31日～2月15日

4 調査対象	対象者	団体数/人数	回答数	回答率
	(1) 市スポーツ協会加盟競技団体	47団体	19団体	40.4%
	(2) 市内スポーツ少年団	119団体	39団体	32.8%
	(3) 令和5年度モデル事業参加者			
	生徒	189人	72人	38.1%
	保護者	189人	32人	16.9%
	指導者	17人	14人	82.4%

※注1：運動部活動の休日（土、日、祝日）の活動を地域スポーツとして活動を行い、その成果と課題を検証していくもの。令和5年度は14部活で実施し、189人が参加した。

【種目】

野球・バスケットボール・ソフトボール・卓球・剣道・なぎなた・ラグビー・ボルダリング・スケートボード
ハンドボール・バレーボール

5 調査結果の概要

(1) 市スポーツ協会加盟競技団体

- ①休日の部活動の受け入れに前向き又は検討したいとする回答が約半数あるが、難しいと考える団体が4割程度となっている。受け入れ可能な種目は中学校の部活動に存在しない競技種目も多く挙げられている。（キックボクシング、ボウリング、ゲートボール等）
- ②受け入れにかかる会費は、競技種目によって経費が異なるため、ばらつきがあるものと思われる。
- ③受け入れにあたっての心配な点として、「活動場所の確保」や「生徒や関係者のトラブル対応」が多く挙げられている。
- ④市に希望する支援として、「活動場所の優先的な利用」が最も多く、次いで「会費等の補助」が多くなっている。

(2) 市内スポーツ少年団

- ①スポーツ少年団の活動場所は、多くが小学校の体育館及びグラウンドを利用しており、休日の部活動の受け入れには、中学校の活用も今後の検討課題と言える。
- ②受け入れに前向き又は検討したいとする回答が約半数あるが、難しいと回答した団体も4割強ある状況となっている。受け入れが難しい理由は、「指導者の調整や確保」や「自分たちの活動が忙しい」などの回答が多くなっている。
- ③受け入れ可能な種目は、全体的に中学校の部活動に存在する競技種目となっている。（バレーボール、バスケットボール、野球など）
- ④中学生を指導する場合の心配な点として、「責任の所在」や「指導内容・指導方法」について多くの団体が不安を抱えている。
- ⑤市に希望する支援として、「活動場所の優先的な利用」や「会費等の補助」が多く挙げられている。

(3) 令和5年度モデル事業参加者

(生徒)

- ①参加して良かった点として、「専門的な指導」や「活動の充実」などが多く挙げられている。
- ②参加して課題だと感じたこととして、「保護者の負担（送迎など）」や「移動手段」が多く挙げられている。
- ③約75%が今後の参加に対して前向きな回答となっており、今後の継続参加に期待が持てる。

(保護者)

- ①参加して良かった点として、参加保護者でも「専門的な指導」や「活動の充実」などが多く挙げられている。
- ②参加して課題だと感じたこととして、参加保護者でも「保護者の負担（送迎など）」や「移動手段」が多く挙げられている。
- ③休日の部活動が地域クラブに移行・連携することについて、参加保護者の約6割が肯定的な考えを示している。
- ④約9割が今後の参加に対して前向きな回答となっており、今後の継続参加に期待が持てる。

(指導者)

- ①メリットとして、専門的な指導を受けることができることが多く挙げられている一方で、活動場所の確保についての課題が多く挙げられている。